

一般社団法人 日本作業療法士協会

2025年役員選挙 選挙公報

役員選挙と会長候補者投票における候補者について、以下の情報を掲載します。
掲載は五十音順です。

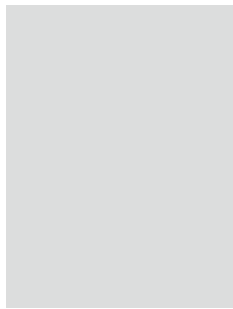
- ・氏名
- ・性別（本人申告のもの）
- ・年齢（本人申告のもの）
- ・所属都道府県（本人申告のもの）
- ・所属施設（本人による任意提出のもの）
- ・写真（本人による任意提出のもの）
- ・立候補の趣旨（本人による任意提出のもの）
- ・略歴等（本人による任意提出のもの）

***理事会推薦候補について**

監事については立候補者がなかったため、規定に基づき、理事会より推薦候補を擁立しております。なお、各推薦候補には、「理事会推薦候補」の表記と「理事会推薦理由」を付しています。

理事候補

理事 1

	氏 名	池田 勝彦
	性 別	男性
	年 齢	36
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
市立吹田市民病院		
立候補の趣旨		
<p>「情報発信の変革に挑む」</p> <p>私は理事として、引き続き協会の「発信力」の強化に取り組みたいと考えています。2023年から理事活動を行う中で、協会の課題の一つとして、情報伝達の改善が重要だと実感しました。</p> <p>前回の公約で掲げた「協会活動の見える化」に基づき、SNSなどを活用して積極的に情報発信を行ってきましたが、個人レベルの努力だけでは限界があります。これからは、協会全体としての発信力の向上に重点を置きたいと思えます。特に、協会内外の有益な情報をタイムリーに届ける体制を整え、より多くの人々に協会の魅力を伝えることを目指します。</p> <p>具体的な施策として、公式 YouTube チャンネルの強化に取り組みます。他団体と比較しても最も影響力のある発信ツールとなるよう、動画配信を充実させ、協会の事業内容や役割、そして魅力をわかりやすく伝えていきたいと考えています。「新しい時代にふさわしい情報発信」を実現し、協会の価値をより多くの人に届けられるよう努めてまいります。どうぞ皆様、よろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2010年 作業療法士免許取得 2010年 社会医療法人協和会加納総合病院 2017年 兵庫県立尼崎総合医療センター 2018年～現職 市立吹田市民病院 主任 2019年～現在 大阪府作業療法士会 代議員 2023年～現在 認定作業療法士取得 2023年～現在 日本作業療法協会理事（担当：教育部、組織率対策委員会）</p>		

理事 2

	氏 名	井上 順一
	性 別	男性
	年 齢	53
	所属都道府県	福岡県
所属施設		
国立病院機構福岡東医療センター（2025年4月より国立療養所菊池恵楓園に異動）		
立候補の趣旨		
<p>この度、OT協会の「誰もが主役、多様な協会へ」という取り組みに協力するため立候補しました。今、私は急性期病院に勤務しています。転勤により別の急性期病院、精神科病院、療養所で勤務することもあります。</p> <p>ここ数年、急性期病院では、呼吸器疾患や外科術後の処方が増えています。命にかかわる社会保障の場で、OTとしてやりがいを感じます。同時に、安全のために緊張感を保ち続ける必要もあります。しかし、OTのスタッフ数が少なく、十分な介入が難しいこともあります。</p> <p>病院でOTの雇用を増やすには、他の職種から「OTはどの診療科の治療でも支えてくれる。OTに頼んだら患者さんが前向きになった」と喜ばれることが重要です。少しでも多くのOTが希望する道を選べるように、臨床・研究・教育が協力することを声に出していきます。</p> <p>もちろん、病院以外の領域や、新しい領域も大切です。ある青年が「仕事がつらくても、相談できる人がいません。幼い頃から施設で育ち、両親はいません。子供に対して虐待があると言われて、一人になりました」と心の痛みを話してくれたことがあります。</p> <p>私は社会的不利には、能力よりも格差が強く影響すると考えています。そして、私達の様々な資源が公正に分配されて、小さな幸せを支え合う地域共生社会ができることを心から願います。</p> <p>「誰もが主役、多様な協会へ」の取り組みに協力しながら、誰もが自由に参加できる作業療法の新しい語り方を作っていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>学 歴：OT養成校卒業（平成6年）、OT免許取得（平成6年）、学士（教養、平成15年）、修士（保健学、平成18年）、博士（保健学、平成22年）</p> <p>職 歴：公的病院勤務（平成6年）、老健勤務（平成9年）、民間病院勤務（平成12年）、専門学校勤務（平成17年）、公的病院勤務（平成21年～現在）</p> <p>協会歴：OT協会入会（平成6年～現在）、第30回OT学会実行委員（平成8年）、県のOT学会実行委員（平成19年）、現職者共通研修講師（平成27年）、認定OT（平成30年～現在）、OT学会の演題査読（平成30年～現在）、九州OT学会演題査読（令和2年）、専門OT（令和5年～現在）</p>		

理事 3

	氏 名	岩上 さやか
	性 別	女性
	年 齢	44
	所属都道府県	神奈川県
所属施設		
国際医療福祉大学 小田原保健医療学部		
立候補の趣旨		
<p>恩師の影響を受け、臨床2年目から協会活動に関わらせていただいています。その間に培った思いや周囲の勧めを受け、この度初めて理事に立候補いたしました。立候補に至った理由は二つです。</p> <p>一つ目は「より多くの会員が関心を持てる協会活動を目指し、情報の透明性と共有を強化したい」という思いです。これは第8回アジア太平洋作業療法学会の広報委員としての約3年間の経験に基づいています。業務を通じて学会への貢献を実感できた一方で、様々な手段や工夫で広報を行っても、そもそも協会発信の情報に注目している会員が少ないという現状に直面しました。また、現職の理事や事務局の方々が会員のために尽力されているにもかかわらず、その熱意が十分に伝わっていないもどかしさを感じました。よって会員と協会の情報共有を強化していきたいと強く考えています。</p> <p>二つ目は「次世代に繋がる協会活動の活性化を具体化したい」という思いです。作業療法士として21年目を迎え、特に次世代を育む教育に深く携わっています。作業療法の業界で卒業生が自信を持って活躍でき、安心して働ける環境づくりに貢献できることを考えていきたいと思っています。</p> <p>いつも私の心には、谷川俊太郎さんの詩『みみをすます』の一節があります。 「ひとつのおとにひとつのこえに みみをすますことが もうひとつのおとに もうひとつのこえに みみをふさぐことにならないように」 会員一人ひとりとの繋がりによって協会は成り立つと思います。まずは会員の関心を高め、つぎに様々な分野や立場で働く会員の声に耳を傾け、そして協力を得てより良い協会活動の構築に尽力していきたいと思っています。何卒よろしく願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p><協会活動歴> 調査部部員 2007.6 - 2011.6 統計情報委員会委員 2011.6 - 2021.3 アジア太平洋作業療法学会広報委員 2022.1-2025.3 国際部部員 2023.4 - 2025.3</p> <p><学歴・職歴> 作業療法士免許取得 2005 博士（保健医療学）国際医療福祉大学 2015 北原国際病院 2005-2007 北原リハビリテーション病院 2007-2010 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 2010- 現在</p>		

理事 4

	氏 名	上田 裕久
	性 別	男性
	年 齢	47
	所属都道府県	徳島県
所属施設		
株式会社 豊結会		
立候補の趣旨		
<p>日々変化する社会情勢に対して、常に危機感を持ちながら協会理事として1期2年間を務めて参りました。現状の課題として、組織率の低下が挙げられており対応策が実施されていますが、私が一番危惧していることは、未来の作業療法士の減少です。すでに地方では養成校における定員割れが起こっています。つまり、日本作業療法士協会への入会資格者が減少していく状況がすでに始まっているということです。そのため、我々は何故このような状況になってしまったのかを、検討する必要があると常に考えています。作業療法の広報活動の方向性は正しかったのか、専門職の自己満足に陥っていないのか、協会の運営はこれで良いのか、などを日々自問自答しながら務めて参りました。</p> <p>私は県士会の役員を17年間務め、現在は県士会長として5年目を迎えております。協会理事としての2年間と県士会での経験を踏まえて、協会にしかできない全国発信による一般の方への作業療法の魅力を広める活動と、県士会として県単位で一人ひとりの会員が地域で活躍できる場を作ることで作業療法が広がっていくと考えています。</p> <p>私は作業療法士の品格を保ち、会員一人ひとりのために組織力の強化を図り、職域を超えた活動にも注力し、作業療法士の地位向上に取り組んでいくために、この度、2期目の理事に立候補する決意をいたしました。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p><学歴・職歴></p> <p>平成11年 3月 徳島医療福祉専門学校 作業療法学科 卒業</p> <p>平成11年 4月 医療法人 養生園 田岡東病院（現：T A O K A こころの医療センター）</p> <p>平成16年 4月 社会福祉法人 健祥会 徳島健祥会福祉専門学校（現：専門学校 健祥会学園） 専任教員</p> <p>平成22年10月 株式会社 豊結会 代表取締役 就任</p> <p><士会・協会活動></p> <p>平成25年11月 認定作業療法士 取得</p> <p>平成30年 5月 一般社団法人 徳島県作業療法士会 副会長</p> <p>令和 2年 6月 一般社団法人 徳島県作業療法士会 会長</p> <p>令和 5年 5月 一般社団法人 日本作業療法士協会 理事</p>		

理事 5

	氏 名	大庭 潤平
	性 別	男性
	年 齢	50
	所属都道府県	兵庫県
所属施設		
神戸学院大学		
立候補の趣旨		
<p>作業療法士の使命は、国民の健康と安寧の一助となることです。そのために日本作業療法士協会は、会員のための臨床実践の場とキャリア形成の場の環境改善に取り組んでいく必要があります。作業療法士の社会的地位向上のために、これまで以上に協会改革に尽力していきたいと思えます。</p> <p>2023年6月から副会長とWFOT代表としての活動が始まりました。これまで様々な事業に着手し、実行してきましたので、その代表的なものを3つご紹介します。</p> <p>1, 基本理念の策定：本会が常に自覚し、また立ち返るべき価値観、社会的使命、基本姿勢を示し、その普及に取り組んでいます。</p> <p>2, APOTC2024の開催：実行委員長として過去最大の参加数と演題数を達成して盛会に導き、日本の作業療法の発信とアジア太平洋地域でのプレゼンス向上に取り組みました。</p> <p>3, 協会組織と事業計画の改革：執行部体制の見直し、事業と財務の検討等を通じて作業療法5カ年戦略の推進に取り組んでいます。</p> <p>すべてが完結に至ってはいませんが、理事、委員、事務局職員、そして会員の力を結集して、成功に導きたいと考えています。さらにリーダーシップを発揮して、様々な協会事業に取り組んでいくことを決意しています。</p> <p>その先には、会員が会員で良かったと思う、会員の暮らしが豊かになることが実現されると思えます。その実現のためには、社員をはじめ会員の皆様のご理解とご協力が必要です。作業療法の力をもっと国民に届け、会員の満足度が高い協会にしましょう。</p> <p>「作業療法が必要な人に作業療法士が寄り添える社会」「作業療法士がもっと活躍できる社会」を創造していきます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【協会活動】副会長（2023～）、WFOT代表（2023～）、社員（2011～） APOTC2024 実行委員長、常務理事（3期）、理事（3期） 国際部長、事業部長、倫理委員、表彰審査委員等を歴任、特別表彰受賞（2023）</p> <p>【学術・教育活動】日本義肢装具学会理事、国際標準化機構委員、厚生労働省や日本学術振興会の委員等</p> <p>【資格等】博士（保健医療学）、認定作業療法士、臨床実習指導者 MTDLP指導者、日本義肢装具学会認定士</p> <p>【臨床活動】兵庫県立総合リハビリテーションセンター、石原内科リハビリテーション科（継続中）、他</p>		

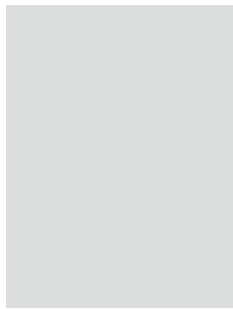
理事 6

	氏 名	岸 雪枝
	性 別	女性
	年 齢	52
	所属都道府県	兵庫県
所属施設		
兵庫医科大学病院		
立候補の趣旨		
<p>この度、初めて理事に立候補させていただきました。</p> <p>私は養成校卒業後、精神科での臨床や教育に携わり、再び臨床現場に戻りました。現在は OT・PT・ST 統括部門の次長として管理業務や精神科作業療法、精神科リエゾンチームの臨床業務を担っています。2 年程前からは救急搬送された自殺企図者のリスク評価や調整も行っています。私自身、出産後は士会や協会の活動に参画することが難しく、目の前の仕事に向き合う日々でした。今でも日々悩むことばかりですが、多くの出会いに助けられ、力を頂き、成長をさせてもらっています。今回の選挙ではクオータ制が導入されました。当初は躊躇をしていましたが、職場や周囲の後押しもあり、私のように協会活動から離れていた者だからこそ貢献できることがあるのではないかと思います。立候補をしました。</p> <p>作業療法の仕事は魅力にあふれています。ご存知の通り、作業療法士の活躍は医療だけではなく社会全体に広がっており幅広い実践が展開されています。しかし一般社会のみならず作業療法士自身にも十分に魅力が知られていないように思います。ひとりの作業療法士ができることは限られていますが、それぞれが実践を重ねること、つながりを持って実践を伝えていくこと、ともに広げていくことで一人一人の作業療法士自身が誇りを持ち社会全体にその意義をアピールしていくことができると考えています。日本作業療法士協会はその中核をなす存在です。協会にさまざまな人が入り、柔軟なアイデアを出し、今後の展望を示すことこそ作業療法の意義につながっていくと考えます。</p> <p>微力ではありますが精進したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1994 年京都大学医療技術短期大学部卒業後、泉州病院にて精神科作業療法室等を開設。 1998 年大阪府立看護大学医療技術短期大学部作業療法学科助手、 2005 年大阪府立大学総合リハビリテーション学部作業療法学専攻助手として勤務。 2006 年神戸大学大学院医学系研究科博士前期課程修了。同年より兵庫医科大学病院リハビリテーション部（現：リハビリテーション技術部）に入職し精神科作業療法室、精神科リエゾンチームの立ち上げを担い、現在はリハビリテーション技術部次長として管理業務も行う。 対外的には LAHPE 研究会共同代表、2024 年より日本うつ病作業療法研究会副会長としての活動も行なっている。</p>		

理事 7

	氏 名	倉田 香苗
	性 別	女性
	年 齢	49
	所属都道府県	愛知県
所属施設		
医療法人名南会		
立候補の趣旨		
<p>気候変動から気候危機へ 気候変動は気候危機へと進行しており、国連のグテーレス事務総長は「地球沸騰化」と表現しました。 国内外で多発する大規模災害は気候変動が要因とされ、人々の日常の作業に大きな影響を与えています。私たちがいつも行っていたことが突然できなくなってしまうのです。</p> <p>作業療法士の使命 この気候変動は、人間活動、すなわち作業が大きな要因と考えられています。 作業療法士は作業の専門家として、人々の健康な生活を実現し、守るために存在します。 気候危機が人々の健康を脅かす今、作業療法士としてより積極的に働きかける必要があると考えます。</p> <p>未来への取り組み 私たちは、健康を促進する環境を整えるため、作業の専門家としての知見を活かし、制度の変革を推進することを目指す必要があると考えます。持続可能な未来のために、ぜひ共に取り組んでいきましょう。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>専門学校社会医学技術学院卒業（2005年3月） 医療法人名南会在職（2005年4月～現在） APOTC（Asia-Pacific Occupational Therapy Congress）で気候変動と作業療法についてポスター発表</p>		

理事 8

	氏 名	小林 毅
	性 別	男性
	年 齢	62
	所属都道府県	千葉県
所属施設		
日本医療科学大学		
立候補の趣旨		
<p>今回の理事の立候補に当たり、改めて、今まで以上に理事会で真摯に意見することに努めるとともに、理事会が審議機関としての役割を果たすことを期待したいと考える。みなさまのご理解、ご協力とご支持をお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>作業療法士としては大学病院勤務を中心に、リハビリテーションセンターなどで臨床を経験し、県庁・厚生労働省での行政、専門学校、大学での養成教育に関わり、2020年から現職。</p> <p>協会活動は、1999年大学病院勤務時に教育部「国家試験問題・指針検討小委員長」として関わったことから始まり、その後も養成教育・生涯教育関連の委員、教育部長を経験し、2005年から2011年まで理事を務めている。2016年に行政庁勤務のために退任、2019年から理事などの協会活動に再び従事。</p>		

理事 9

	氏 名	坂田 祥子
	性 別	女性
	年 齢	59
	所属都道府県	千葉県
所属施設		
東京湾岸リハビリテーション病院		
立候補の趣旨		
<p>作業療法士として38年、沢山の方と出会い、仕事や協会・士会活動を通して様々なことを学ぶことができ、私の人生はとても豊かなものになったと感じています。そういう環境にいらることができて幸運だったのかもしれませんが、作業療法士として働いたり活動する環境には、協会の働きかけが大きく影響していることを知り、感じてきました。現在、私の周りには、作業療法をすることに不安を感じたり、希望を持ってなくなっている人も見かけます。すべての作業療法士が自信をもって作業療法を実践できる環境、それが広く人々の健康・福祉の向上に貢献することに繋がります。未来の作業療法や作業療法士の活躍できるより良い環境づくりのために、協会活動に積極的に参加したいと思い理事に立候補致しました。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>作業療法士免許取得後、リハビリテーション専門病院、大学病院、作業療法士養成校での勤務を経験しました。2007年4月より、現在の医療法人社団保健会に所属し、主に回復期である東京湾岸リハビリテーション病院にて管理業務・臨床業務に携わっています。</p> <p>日本作業療法士協会での活動は、2000年以降、保険部、教育部、生涯教育部、47都道府県委員会の部員や委員として活動してきました。現在は、倫理委員会（常設）、海外研修助成制度審査員として活動しています。</p> <p>群馬県作業療法士会と千葉県作業療法士会での県士会活動経験があります。千葉県士会では、2008年より理事会に所属し、2013年～副会長、2018年～会長、2024年～監事を務めています。</p>		

理事 10

	氏 名	佐藤 純
	性 別	女性
	年 齢	53
	所属都道府県	東京都
所属施設		
医療法人社団欣助会 介護老人保健施設花水木		
立候補の趣旨		
<p>【5カ年戦略と作業療法実践】</p> <p>日本作業療法士協会は5カ年戦略に基づき、地域共生社会において国民の健康と幸福に貢献し、広く作業療法を知ってもらうための活動を推進しています。作業療法の発展は実践が起点となっていますが、日々の実践と5カ年戦略の結びつきを実感しにくいのが現状です。作業療法実践の一つ一つが5カ年戦略に関連していること、そしてその実践が未来を構築する礎となっていることを会員が実感でき、参画意識や満足感の得られやすい協会運営に貢献したいと考えます。</p> <p>【MTDLPの重要性】</p> <p>国民の健康と幸福に貢献するために、私たち作業療法士は「作業」を基盤とする活動と参加の視点で専門性を発揮することが大切です。そのために、生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）の実践が重要となります。推進活動に携わる中で、MTDLPは周囲と協働するマネジメントスキル、そして創造的に課題解決を図るジェネレーター資質の醸成に寄与すると感じています。対象者と作業療法士双方の未来を広げる鍵となるMTDLPを、もっと有効活用していただけるよう推進を図りたいと考えます。</p> <p>【作業療法の未来と協会の活動】</p> <p>未来に向けて取り組むべき課題は多くあります。作業療法士の活躍する場を広げ、障害の有無に関わらず、必要とする人に作業を提供できるようにすること。そして、作業療法士の認知度を高め、子供達にとって憧れの職業とすること。実践を通して会員が参画意識を持てる協会運営を行うこと、などです。協会の運営に貢献しつつ、臨床の現場では実践で協会に貢献できる作業療法士でありたいと考えます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
略 歴）	国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院卒。藤田医科大学大学院保健学研究科修士課程修了。東京慈恵会医科大学附属第三病院での勤務を経て、介護老人保健施設花水木へ入職、現在に至る。	
協会活動）	認定作業療法士、MTDLP指導者、臨床実習指導実践者研修修了。教育部養成教育課MTDLP教育推進班班員。教育関連審査会委員。	
社会活動）	NPO法人煌めく返り花にて副代表理事を務め、老い支度の課題や高齢期の住まい方に対して活動。その他、ABD協会認定ファシリテーターを活かし読書を通じた場づくりと越境学習を支援。	

理事 11

	氏 名	澤田 辰徳
	性 別	男性
	年 齢	49
	所属都道府県	東京都
所属施設		
東京工科大学		
立候補の趣旨		
<p>私はこれまで日本作業療法士協会において、学術部員や学術委員会副委員長として活動し、作業療法の定義改訂などに尽力してまいりました。また、運転と地域移動支援班では前身の委員会設立当初から参画させて頂き、近年では理事の先生、教育部、職員の皆様と共に運転と地域移動支援実践者制度の設立に注力いたしました。これらの経験を通じ、協会の組織事情や運営課題について一定の理解を深めてきたと自負しております。</p> <p>私が理事に立候補した理由は作業療法士という職種を持続可能なものとし、さらにその発展に寄与することです。私は協会の最も重要な役割の1つが「会員ファースト」、すなわち会員の皆様にとって有益な存在であることだと考えます。現在の社会情勢が不安定な中、職域の保証と発展は欠かせません。その実現には、迅速かつ柔軟な課題解決が求められます。私はこれまでの協会活動を通じいくつかの課題を感じています。具体的な対策には、日本の作業療法の枠組みの整理と領域の明確化、資格制度を含む円滑な教育システム、待遇改善の提言、そして学術的制度や作業療法のエビデンスの強化などが必要です。組織率の向上に関しても学生の参画も視野に入れる必要性を感じています。また、日本は作業療法士の人数で世界第2位を誇る一方で、待遇や教育では先進国に後れを取っている面があります。これらの課題を打開し、持続可能な職業の基盤を築くために尽力したいと考えております。</p> <p>これまでの私の協会関連業務や学会運営、マネジメント経験を活かし、課題解決と会員の皆様にとって価値ある協会運営を実現する所存です。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>広島大学医学部保健学科卒業，同大学院保健学研究科修了（保健学博士）</p> <p>主な職歴</p> <p>2006年 聖隷クリストファー大学専任講師 2007年 イムス板橋リハビリテーション病院技士長 2013年 イムスグループ OT 会代表幹事（兼任） 2015年 同院 診療技術部門長（兼任） 2016年 東京工科大学 准教授（2021年教授）</p> <p>その他の活動</p> <p>日本臨床作業療法学会元会長（5期） 日本リハビリテーション医療 DX 学会理事・編集委員長</p> <p>協会活動</p> <p>学術部員、学術委員会副委員長、作業療法定義改定委員、学術誌・学会査読者、APOTC 誘致委員、運転と地域移動支援班班員など</p> <p>主な協会資格</p> <p>認定作業療法士、運転と地域移動支援実践者</p>		

理事 12

	氏 名	島崎 寛将
	性 別	男性
	年 齢	44
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
大阪府済生会富田林病院		
立候補の趣旨		
<p>このたび、2期目の理事に立候補させていただきました島崎です。</p> <p>現在（1期目）では、学術部補佐、よんぱち担当を拝命し、協会理念ワーキング、誰もが主役・多様な協会へ推進チーム等を担当させていただきました。</p> <p>私自身が理事としての活動志す理由は、私が魅力・誇りに思う「作業療法がもつ力」「作業療法士という仕事（役割）」を何十年、何百年の将来に渡って次の担い手に引き継いでいくために、今しなければいけないことがあり、それを議論し実行できる協会組織を作らないといけないと考えるからです。</p> <p>国民、社会の中で作業療法士が求められ、それぞれの作業療法士が作業療法士らしく活躍できるようにするために、協会は組織力を高める必要がある。そのように思っています。</p> <p>もう1期、2年間、微力ですが協会・OTのために取り組みたいと思い立候補させていただきます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002年「作業療法士」資格取得し、総合病院・がんセンター・訪問看護ステーションにて勤務。主に身障・老年期領域の臨床に従事。</p> <p><協会・学会等での役割></p> <p>日本作業療法士協会：代議員（2011年～）／理事（2023年～）</p> <p>大阪府作業療法士協会：理事（2014年～2016年）</p> <p>日本リンパ浮腫治療学会：評議員（2016年～）</p> <p>日本リンパ浮腫学会：評議員（2024年～）</p> <p>がんのリハビリテーション研修研修運営委員など</p>		

理事 13

	氏 名	関本 充史
	性 別	男性
	年 齢	46
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
株式会社リニエ L		
立候補の趣旨		
<p>私は 2 期理事を務めさせて頂き、制作広報室、日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会 48 団体連携協議会副協議会長、「協会員 = 士会員」実現のための検討委員会、リハビリテーション専門職三団体協議会における訪問リハビリテーション振興委員会、第 8 回アジア太平洋作業療法学会（8th APOTC 2024）実行委員を担当致しました。作業療法の普及・啓発、都道府県との連携、日本理学療法士協会・日本言語聴覚士協会はじめ他職能団体との連携、地域リハビリテーションの推進に邁進して参りました。</p> <p>日本においては、地域共生社会が推進され、多職種協業により地域支援が求められております。作業療法士は、生活課題に対する具体的解決策を提供できる職種ですが、まだまだ地域では不足しております。また、その求められる分野も介護予防・就学・就労・司法・保健分野など幅が広がっており、特に子どもへの支援、就労支援、認知症はじめ介護予防等高齢者支援への関わりは、これからの要です。この情勢で作業療法士が国民に役立つためには、マネジメント力を強化することが必須です。</p> <p>そのためには、ニーズに応えられる人材育成、都道府県作業療法士会との連携を深め、ニーズ把握・分析・実行を迅速に対応できる当協会の強い組織づくりや、地域支援へ参画できるよう作業療法士を制度へ位置づける等に貢献していきたいと考えております。</p> <p>私は、未来ある職種として、協会活動を展開していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【学 歴】 2002 年 3 月 国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科 卒業 2023 年 3 月 山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士前期課程 修了 2023 年 4 月 山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士後期課程 入学</p> <p>【所属学会等】 一般社団法人 日本作業療法士協会 常務理事 一般社団法人 大阪府作業療法士会 監事 日本作業療法士連盟 事務局次長 / 大阪府作業療法士連盟 事務局長</p>		

理事 14

	氏 名	高島 千敬
	性 別	男性
	年 齢	52
	所属都道府県	広島県
所属施設		
広島都市学園大学		
立候補の趣旨		
<p>私は、日本作業療法士協会の理事として7期14年の任期を終え、次期選挙にも立候補いたします。これまで制度対策を中心に役割を担い、多くの要望を実現してきました。昨期より常務理事を拝命し、診療報酬に関連して診療報酬関連の諮問委員会の運営と事務局活動の支援を行いました。</p> <p>昨年は診療報酬改定年度であり、改定説明会を開催し、会員への周知を図るとともに、新設された急性期リハビリテーション加算への対応研修を企画しました。現在、概算医療費は47兆円を超え、そのうちリハビリテーション費用は3兆円に迫っています。今後はより効果的かつ効率的な支援が求められます。また、新たな地域医療構想では早期退院が推奨され、作業療法が円滑な地域移行にいかに関与できるかが重要な課題です。</p> <p>来期は、長期的な視野を持ち、諮問委員会や医療課、学術部等と連携し、疾患や病期を問わず作業療法が効果的に提供できる体制を推進します。</p> <p>コロナ禍以降、協会の入会率低下や学会参加者の減少が顕著であり、各士会でも同様の傾向が見受けられます。事例報告会の参加者減少も深刻であり、現職者の質向上に向けた施策が急務です。</p> <p>一方で、協会では新生涯教育システムがスタートする年でもあります。この機会を活かし、登録・認定・専門作業療法士制度をより発展させ、関連団体と連携して、社会保険制度におけるインセンティブの導入の実現を目指します。</p> <p>今後も作業療法の発展と制度の充実に尽力し、協会のさらなる発展に寄与してまいります。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職 歴】 1999年4月 - 2000年3月 倉敷平成病院 リハビリテーション科 2000年4月 - 2015年9月 大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部 2015年10月 - 現在 広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻</p> <p>【役員歴】 2007年7月 - 2011年6月 日本作業療法士協会学術部内部障害委員会 委員長 2011年6月 - 2023年5月 日本作業療法士協会 理事 2023年6月 - 現在 日本作業療法士協会 常務理事 2023年 - 現在 日本リハビリテーション医療DX学会 理事 2023年 - 現在 日本リンパ浮腫学会 理事</p>		

理事 15

	氏 名	高橋 香代子
	性 別	女性
	年 齢	45
	所属都道府県	神奈川県
所属施設		
北里大学		
立候補の趣旨		
<p>私は理事を拝命して2年間、「領域や働き方が多様化していく中で、どの世代の作業療法士も夢と希望をもちながら安心して働ける環境を整備する」という信念のもと協会活動に参画してまいりました。</p> <p>協会理念の策定チームでは、作業療法を取り巻く様々な背景を鑑みながらも、協会員のみなさまに共感していただける理念を目指し「作業で暮らしに彩りを」という理念を策定しました。また、「誰もが主役 多様な協会へ」推進チームでは、すべての協会員が取り残されることなく、誰もが協会活動に参画しやすい体制作りに尽力してまいりました。</p> <p>国際部担当理事としては、海外からの研修の受け入れ制度の構築や、海外研修助成金制度の拡充などに取り組んできました。また、実行委員長補佐として関わらせていただいたアジア太平洋作業療法学会では、世界32カ国・地域から多くの作業療法士が集まり、国内外の作業療法について学び合う貴重な機会となりました。</p> <p>今後、理事としてさらに取り組みたいことは、「誰もが主役・多様な協会へ」の実装です。本役員選挙にてジェンダーに着目したクォータ制が開始されましたが、今後はさらに年代や領域なども含めた制度づくりを進めたいと思います。また、国際部の活動を通して多様性に対して寛容かつ適応力のある「国際的作業療法士」の育成にも力を入れたいと思います。</p> <p>今回それぞれの事業での会員へのヒアリングを通して、さまざまな世代の協会員が協会に何を求めているのかを知ることができました。これからも常に協会員の声に耳を傾けながら、ひとりひとりに寄り添った協会活動を推進していきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>協会活動歴：世界作業療法士連盟 (WFOT) 第一代理・オブザーバー (2014- 現在) アジア太平洋作業療法地域グループ (APOTRG) 副会長 (2024- 現在) 世界保健機関 (WHO) 福祉用具 外部専門諮問委員 (2022- 現在) アジア太平洋作業療法学会誘致・実行委員会 (2018-2024) 国際部部員 (2007- 現在) 国際部部長 (2023- 現在) 教育部部員 WFOT 教育委員 (2017- 現在), 学術部部員 (2019-2022)</p> <p>学歴・職歴：博士 (医科学) 米国ボストン大学 (2008) 北里大学東病院・北里大学病院 (2008- 現在) 北里大学医療衛生学部・大学院医療系研究科 (2012- 現在)</p>		

理事 16

	氏 名	竹中 佐江子
	性 別	女性
	年 齢	46
	所属都道府県	東京都
所属施設		
株式会社リニエ R		
立候補の趣旨		
<p>私はこれまで、地域における小児のリハニーズに応えるべく、法人の取締役として一人でも多くの作業療法士が小児領域に携われるよう、実践の場を提供することに取り組んでまいりました。その中で、作業療法士のキャリア形成において、実践を通して学ぶ機会をいかに組織的に設けるかが重要であると痛感いたしました。</p> <p>また、1 期目・2 期目において、教育部担当理事を拝命し、卒前・卒後教育のあり方について検討を重ねていく経験を通して、人材育成の仕組み、そして人の繋がりこそが、今後の作業療法発展の要であることを改めて認識いたしました。人の可能性を最大限に引き出す人材育成と、その繋がりを強固なものとするは、これからの作業療法を発展させていく上で不可欠です。</p> <p>実践の場作りと人材育成は、車の両輪です。質の高い実践の場があつてこそ、主体的な学びへの意欲が生まれ、その学びを生涯にわたって継続していくための、人材育成の仕組みが必要となります。少子高齢化が進む現代において、社会保障制度における作業療法士の評価は重要な課題です。同時に、公的制度に左右されない、多岐にわたる職域の拡大も推進していかなければなりません。</p> <p>私は、これらの課題解決に向け、地域における作業療法士の活躍の場の拡大、質の担保と向上に向けた継続的な取り組み、そして実践と学びを繋ぐ仕組みづくりの3点に力を注いで参ります。</p> <p>草創期の先生方が私たちの未来を切り開いてくださったように、これからの作業療法士の人材育成、そして地域共生社会において作業療法を必要としている一人でも多くの方々に、質の高い支援が確実に届くよう、協会の組織作りに貢献して参ります。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002 年神戸大学医学部保健学科卒業 2002 年特定医療法人大道会ポバース記念病院入職（2006 年森之宮病院異動） 2007 年（株）メディケア・リハビリ入職 2010 年（株）東京リハビリテーションサービス（2023 年（株）リニエ R へ商号変更）入職（2012 年取締役就任） 2024 年広島大学大学院医系科学研究科博士課程前期修了 <協会活動・社会活動> 日本作業療法士協会理事（2021 年～現在 / 2023 年～教育部部長） / 訪問リハビリテーション振興財団常務理事（2022 年～現在） / 日本小児リハビリテーション医学会評議員（2023 年～現在） / 東京都作業療法士会監事（2024 年～現在）</p>		

理事 17

	氏 名	辰己 一彦
	性 別	男性
	年 齢	48
	所属都道府県	奈良県
所属施設		
株式会社 UT ケアシステム		
立候補の趣旨		
<p>私が立候補するにあたり、掲げるテーマは「地域共生社会の実現」です。理事1期目（2023-2024年度）に、地域社会進行部の部長を務め、地域共生社会5カ年戦略に基づく33の事業のうち、12事業の実施に取り組んで参りました。これらの事業は、地域社会のニーズに応じた作業療法の重要な役割を再確認するものであり、多くの方々と力を合わせて進めて参りました。</p> <p>近年、地域社会における高齢化や障害を持つ方々の増加が顕著となり、地域共生社会の重要性がますます高まっています。地域共生社会とは、様々な人々が互いに支え合い、共に生活し、人生を豊かにすることで、誰もが安心して暮らせる社会を指します。このビジョンを実現するためには、作業療法士が果たす役割が非常に重要です。社会のニーズを考えると、子ども・精神・就労・保健・福祉・教育・その他の分野で支援が行える作業療法士をより多く輩出することが不可欠だと考えています。</p> <p>そのために、これまで地域共生社会の実現を見据えた人材育成と地域に根差した作業療法士の普及展開を行って参りました。今後はさらにその取り組みを強化し、地域の多様なニーズに対応できる作業療法士をより多く輩出し、地域社会での役割をさらに広げていきたいと考えています。これが、今を生きる我々の使命であると私は考え、その一端を担うべく立候補をいたしました。</p> <p>地域共生社会の実現は一朝一夕には成し遂げられませんが、私は皆様と共に歩んでいく覚悟です。作業療法士が地域に根ざし、多様な人々が支え合いながら共生できる社会を築き上げていきたいと思っております。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【部署活動履歴】 一般社団法人奈良県作業療法士会 理事 2017.4- 現在 地域包括ケアシステム推進委員会委員 2017.6-2022.3 地域包括ケアシステム推進委員会委員長 2022.4-2023.3 一般社団法人日本作業療法士協会 理事 地域社会振興部長 2023.5- 現在 その他職歴：社員（奈良県）2019.12- 現在 財団法人訪問リハビリテーション振興財団 理事 2024.6- 現在</p> <p>【経歴】 2010年 株式会社 UT ケアシステム 代表 現職</p>		

理事 18

	氏 名	谷川 真澄
	性 別	男性
	年 齢	61
	所属都道府県	福井県
所属施設		
有限会社なるぞ		
立候補の趣旨		
<p>作業療法への疑問からMTDLP創設に関わり、10年が過ぎました。現在は、地域社会振興部の第四次5か年戦略の下、多くの会員の皆様とともに「その人らしい地域生活の実現に向けて、地域事業への参画・実践を開発、提示、実行できる環境・組織化、人材育成を進めています。是非これをやり遂げたい。</p> <p>一方で、2025～2026年の2年間で実行すべく大所高所での課題があります。理事として、以下の対内的活動に注力していく所存です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本理念を前提とした経営的視点で行う本会財務の最適化とその定着 2. 1の下、本会が担い実行すべき事業の選定と実行、その仕組み化 3. 協会員＝士会員の度完全移行（2027年度）に向けた準備 <p>少子高齢化、地方の人口減少・過疎化が加速し、経済問題から地方自治の課題も鮮明化され、地域医療構想、地域包括ケアシステム構築も待ったなしの状況です。現在、多様性、公平性、包摂性の概念を崩そうとするアメリカの政策転換が世界を揺らしています。このような中、我が国の「健康と福祉」はどこに向かうのか、作業療法士の役割は何なのか、注視し、考え、組織として発信していきます。</p> <p>2024年度、私たちの組織がどうあるべきか、会員の皆さんと共に考え、基本理念「作業で暮らしに彩りを」を内外に示しています。組織の課題も、会員個人の悩みや課題も多岐多様、世界情勢も刻々と変わろうとしています。組織としての信念を持ち、より良い選択と決断をするために、理事として努めて参ります。ご支援とご理解の程、よろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<ul style="list-style-type: none"> ●協会活動歴 <ul style="list-style-type: none"> 理事 2019～2023：地域包括ケアシステム推進委員会、MTDLP 室担当 常務理事 2023～2024：地域社会振興部、組織率対策、よんぱち等担当 保険部部員 2001～2003 規約委員会委員 2005～2007 MTDLP 推進プロジェクト委員会委員 2014～2015、委員長 2015～2018 MTDLP 士会連携室室長 2018～2019 地域包括システム推進委員会委員 2015～2022 ●職歴 <ul style="list-style-type: none"> 福井総合病院 1986～1993、老人保健施設まだら園 1993～1995 加賀こころの病院 1995～2003、有限会社なるぞ 2004～現在 ●資格 <ul style="list-style-type: none"> 認定作業療法士、MTDLP 指導者、介護支援専門員 		

理事 19

	氏 名	谷口 敬道
	性 別	男性
	年 齢	59
	所属都道府県	栃木県
所属施設		
国際医療福祉大学		
立候補の趣旨		
<p>この度、理事として2期目に立候補させていただきました。</p> <p>1期目は、教育部部長補佐として、新しい理学療法士作業療法士養成施設指定規則改正案の策定、作業療法士教育モデル・コア・カリキュラム案の提案、2025年から始まる新生涯学修制度実施に向けて、各班の班長、班員の先生方のお力をいただきながら様々なご提案を実現、運用できるように微力ながらお手伝いをさせて頂いてきました。今期は、協会の組織、意思決定の流れを理解することに精一杯であり、前述の通り、これまで各御担当班の中で継続的に議論・起案されてきた班長、班員の皆様のお考えに触れること、理解することに精一杯であり、お手伝いの域を超えることができませんでした。</p> <p>次の期では、1期目の経験を踏まえ、卒前教育と卒後教育のシームレスな教育体系の構築を新たに検討し、2035年以降の社会を担う作業療法士の教育を国から認められるように体系的に整えることに尽力させていただきます。</p> <p>作業療法士国家資格は、受験すること、合格することで得られるものではなく、その前段階の限られた修業年限の中で何を学修するかが養成教育課程に求められ、その教育内容について国民から期待されているといっても過言ではありません。その意識を持ちながら時代に即応した教育課程の編纂に、理事として力を注ぐ所存です。</p> <p>さらに、この教育課程の魅力を可視化することにより、作業療法の社会的認知度を高め、作業療法士を目指す若者の増加の一翼を担えると考えております。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【学 歴】 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 東京理科大学 日本大学大学院理工学研究科 医療・福祉工学専攻 博士（工学）</p> <p>【職 歴】 社会福祉法人重症心身障害児施設毛呂病院光の家 国際医療福祉大学の設立に1995年から参画し、現職 国際医療福祉大学 4キャンパス統括学科長（教授）</p> <p>【地域活動】 那須町教育支援委員会 委員長 那須塩原市地域自立支援協議会 委員長</p> <p>【協会活動】 理事・教育部部長補佐</p>		

理事 20

	氏 名	土居 義典																																	
	性 別	男性																																	
	年 齢	45																																	
	所属都道府県	千葉県																																	
所属施設																																			
有限会社総合リハビリ研究所																																			
立候補の趣旨																																			
<p>私は、訪問看護ステーションの運営、管理に従事しております。最近では就労支援事業、障害者グループホーム、生活介護などの障害福祉の事業に参入しております。国民皆保険を含めた幅広いマネジメント経験を活かし、介護保険制度に関する協会活動にも参加してきました。</p> <p>1期の活動では主に制度対策部にて、令和6年度の制度改正前後や同年12月に看護協会、訪問看護財団、全国訪問看護事業者協会、財務省、厚生労働省、文部科学省と賃上げに向けた要望活動を行ってきました。</p> <p>私は、地域で働く作業療法士の地位向上と生活の安定、インフレに負けない賃金向上を目指しています。</p> <p>2040年を見据え、未来ある若者が作業療法士として働きたいとの希望がもてる社会の実現に貢献したいです。具体的には、以下の取り組みを通じて目標を達成します。</p> <p>①先進的な知識や技術をいつでもどこでも学べる環境の提供、②会員同士が情報を共有できるプラットフォームの構築、③社会的地位向上のための関連団体との渉外活動です。</p> <p>2期目として立候補するにあたり、これまでのサポートに深く感謝しつつ、さらなる貢献を目指して邁進いたします。</p> <p>最後に、岡山県作業療法士会、千葉県作業療法士会の皆様、協会事務局の皆様、そして新卒からご指導、経験を積む機会をくださいました二神雅一様、心から感謝申し上げます。</p>																																			
略歴（協会活動歴、職歴など）																																			
<p>土佐リハビリテーションカレッジ卒業 協会活動歴： 【部署活動履歴】</p> <table border="0"> <tr> <td>日本作業療法士会</td> <td>制度対策部</td> <td>介護保険対策委員会</td> <td>委員</td> <td>2012年～2018</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同</td> <td></td> <td>委員長</td> <td>2019年～現在</td> </tr> <tr> <td></td> <td>同</td> <td></td> <td>理事</td> <td>2023年～現在</td> </tr> </table> <p>その他（役職歴）</p> <table border="0"> <tr> <td>岡山県作業療法士会</td> <td>理事</td> <td>2014年～2017年</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリテーション振興委員会</td> <td>担当理事</td> <td>2014年～2017年</td> </tr> <tr> <td>広報部委員、保険部委員</td> <td></td> <td>2014年～2017年</td> </tr> <tr> <td>千葉県作業療法士会</td> <td>理事</td> <td>2018年～2024年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>幹事</td> <td>2024年～</td> </tr> <tr> <td>千葉県作業療法士連盟</td> <td>会長</td> <td>2023年～</td> </tr> </table>			日本作業療法士会	制度対策部	介護保険対策委員会	委員	2012年～2018		同		委員長	2019年～現在		同		理事	2023年～現在	岡山県作業療法士会	理事	2014年～2017年	訪問リハビリテーション振興委員会	担当理事	2014年～2017年	広報部委員、保険部委員		2014年～2017年	千葉県作業療法士会	理事	2018年～2024年		幹事	2024年～	千葉県作業療法士連盟	会長	2023年～
日本作業療法士会	制度対策部	介護保険対策委員会	委員	2012年～2018																															
	同		委員長	2019年～現在																															
	同		理事	2023年～現在																															
岡山県作業療法士会	理事	2014年～2017年																																	
訪問リハビリテーション振興委員会	担当理事	2014年～2017年																																	
広報部委員、保険部委員		2014年～2017年																																	
千葉県作業療法士会	理事	2018年～2024年																																	
	幹事	2024年～																																	
千葉県作業療法士連盟	会長	2023年～																																	

理事 21

	氏 名	友利 幸之介
	性 別	男性
	年 齢	47
	所属都道府県	東京都
所属施設		
東京工科大学		
立候補の趣旨		
<p>私はこれまで約 14 年間、協会の学術部員および学術委員会副委員長として、作業療法定義改定、組織的研究体制の構築、学術誌の査読や編集（オンライン投稿システムの整備を含む）など、学術関連の多岐にわたる業務に直接携わってまいりました。この経験を通じ、協会学術部が抱える課題とその可能性を深く認識しております。</p> <p>今回、理事に立候補した理由は、以下の 2 点です。</p> <p>1 つ目は、作業療法のエビデンスを構築し、それを効果的に活用するための体制整備が必要だと感じたからです。現在学術部が抱える事業は多岐にわたるため、理事の立場からそれらの事業を俯瞰的に整理・統合し、協会としてのエビデンス構築に向けた学術活動の活性化を図ります。また教育部や制度対策部とも積極的に連携し、作業療法の専門領域に応じた学術的発展と、その社会的価値を高めるための基盤作りに努めてまいります。</p> <p>2 つ目は、協会と会員をつなぐ役割を果たし、会員の声を協会運営に反映させることです。これまでの協会・県士会活動、日本臨床作業療法学会設立、大学教育などを通じて培ってきた人脈やネットワークを活かし、特に業界の未来を担う若い世代からの意見やアイデアを積極的に取り入れたいと考えています。また、若い世代が協会活動に参加しやすい環境を整え、彼らの成長を支援することで、協会全体の活性化を図り、さらに組織力を強化していきます。</p> <p>作業療法業界の発展に向けて全力で尽力してまいります。どうぞ温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2000 年に沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科を卒業後、長崎北病院へ入職。その後、神奈川県立保健福祉大学 助手、講師、准教授を経て、宮古島の身体障害者総合支援施設 青潮園に勤務。東京工科大学 准教授を経て、2023 年より教授。その他、日本臨床作業療法学会 理事、日本臨床作業療法研究 編集委員長などを歴任。</p> <p>協会関連業務として、長崎県士会と神奈川県士会にて学術部員を歴任後、2011 年より日本作業療法士協会 学術部員。作業療法定義改定委員、作業療法学会全書編集委員、学術誌「作業療法」編集委員、学術委員会、学術評議員会設置検討委員を務める。</p>		

	氏 名	中島 ともみ
	性 別	女性
	年 齢	58
	所属都道府県	愛知県
所属施設		
藤田医科大学リハビリテーション学科		
立候補の趣旨		
<p>私の作業療法士としての成長は、主婦として母として介護者として過ごす中で一歩一歩丁寧に学ぶ毎日の中でありました。自分の全ての時間を臨床実践、研究、教育だけに費やすことは出来ない代わりに、生活で得られる経験から得られる学びがありました。多くの困難も周りの方の助けがあり、今があります。</p> <p>いつからか先輩の人数よりも後輩の人数の方が多くなった頃、仲間のために出来ることは何かを考えるようになり、協会活動にも教育部部員として10年以上関わり続けてきました。作業療法士は女性が多く、ライフイベントの中で目標を持ち続けていくこと、目標を探すことが難しくて悩むことも多く、目標の実現をあきらめてしまう仲間を見てきました。一方で男性セラピストもまた、自分自身のキャリアの積み方に悩みを多く抱えていることを聞きますし相談もされます。解決の一助となればと、医学教育を学ぶことを通して知り得たことも多くあり、全国学会の専門作業療法士セミナーで“伝え方”“学び方”お伝えすることもありました。セミナーを通して専門作業療法士を目指し始めた方がいること、教え方に興味を持っていただいた方もいることを知った時は望外の喜びでした。教え教えられて皆が育って欲しいと心から願っています。</p> <p>今ある日本の作業療法士の問題は、一元的な視点では解決できないことを感じています。多様な視点で作業療法の現在と未来を考える人が必要なのだと考えています。私は、全くの一般会員の一人です。でもだからこそ、その目で長く協会を見てきました。この一般会員の一人としての視点、この視点を協会運営に届けるために、ぜひとも皆様の1票をいただきたくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1991年 作業療法士免許取得 羔羊会弥生病院入職 2002年 日本医療福祉専門学校入職 2010年 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学科入職 2011年 博士取得 2012年 認定作業療法士取得 2013年 日本作業療法学会 教育部所属（現在に至る） 2017年 高次脳機能障害領域専門作業療法士取得 2019年 岐阜大学 医学教育開発研究センター MEDC フェロー認定取得 2021年 藤田医科大学リハビリテーション学科入職（現在に至る）</p>		

理事 23

	氏 名	丹羽 敦
	性 別	男性
	年 齢	60
	所属都道府県	福岡県
所属施設		
福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科		
立候補の趣旨		
<p>現在、教育審議委員会委員長および教育部養成教育課の委員を務めております。また、2003年度より、新生涯学修制度、PT・OT学校養成施設指定規則およびガイドラインの改定、作業療法学校養成施設連絡会等に関わる起案、推進事業に携わらせていただいております。その活動ビジョンは、国民の健康への一助となり得る作業療法の専門力（臨床力・現場力）を高めることにあり、そのために卒前卒後の一貫した作業療法教育（育成）の体制づくりに努めてまいりました。しかしながら、日本作業療法士協会の掲げる活動理念およびビジョンは会員の皆様に伝わってきたのでしょうか。ビジョンは目標達成への未来図であり、会員皆で共有できてこそ、組織として同じ方向性を持つことができると考えます。</p> <p>私は、“治し支える医療”“地域共生社会”の実現、また国民の多様なニーズに応えるために、会員が共通のビジョンを掲げ、作業療法士として誇りを持って活動できるような組織体制づくり、そしてグローバルな視野をもちローカル視点で行動できる、すなわちグローバル人材の育成に尽力していく所存です。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1987年に作業療法士国家資格を取得。院内作業療法と訪問リハビリを兼務。1995年より、専門学校、国際医療福祉大学他に勤務。2001年と2006年（計8か月間）にJICA(国際協力事業団)「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」の作業療法専門家として中国リハビリテーション研究センター(北京市)勤務。</p> <p><協会職歴> 教育部・養成教育委員会副委員長、資格試験班班長、臨床実習検討班班長 他</p> <p><現在> 福岡国際医療福祉大学医療部作業療法学科 学科長・教授 日本作業療法協会教育審議委員会・委員長、教育部作業療法士学校養成施設連絡会 班長 他 福岡県作業療法協会副会長、保健医療学修士、認定作業療法士</p>		

理事 24

	氏 名	長谷 麻由
	性 別	女性
	年 齢	51
	所属都道府県	福岡県
所属施設		
国際医療福祉大学福岡保健医療学部		
立候補の趣旨		
<p>私は、2007年より事業部をはじめ福祉用具部、国際部、教育部、MTDLPプロジェクト委員会、地域包括ケアシステム推進委員会などで協会活動に携わってまいりました。</p> <p>2021年からは教育部研修運営委員長を務め、生涯教育に関する研修会の企画・運営システムの構築やeラーニングコンテンツを活用した学びの場の拡充に取り組んでまいりました。</p> <p>作業療法士協会の構成比は30代の子育て世代が多数を占めており、ワークライフバランスを重視しながら、多様な自己研鑽の機会を構築する必要性を感じています。</p> <p>特に、女性会員にとっては日々の子育てや介護と仕事を両立させながら、どのように自身のキャリアアップを図るかについて悩みが多いことかと思えます。</p> <p>そこで、会員のライフステージに沿った多様な学びのシステムを構築するとともに、就業や復職を目指す会員に対する情報提供や支援プログラムを整備し、安心して次のキャリアに踏み出せるようなサポートシステムの構築に向けて取り組みたいと考え、このたび日本作業療法士協会理事に立候補いたしました。</p> <p>なにとぞよろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2007年～2013年 国際部員 2009年～2011年 事業部員 2010年～2012年 福祉用具部員 2011年～2012年 制度対策部員 2011年～2021年 教育部員 2015年～2017年 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会 委員 2018年～2022年 地域包括ケアシステム推進委員会 委員 2021年～2023年 教育部研修運営委員会 委員長 2021年～ 国際部員 2023年～ 海外研修助成制度審査会 委員 2023年～ 教育部員 2023年～ 地域社会振興部員 2023年～ 教育審議委員会 委員 2023年～ 中級パラスポーツ指導員養成講習会事業検討委員会 委員</p>		

	氏 名	早坂 友成
	性 別	男性
	年 齢	48
	所属都道府県	東京都
所属施設		
杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻・医学部精神神経科学教室		
立候補の趣旨		
<p>杏林大学の早坂と申します。現在、当会常務理事として教育関連事業を担当しております。この度、3期目の立候補を決意しました。これまでと同様に、未来の作業療法の発展に向けて邁進し、作業療法のさらなる向上に寄与できるよう尽力してまいります。</p> <p>これまで私が当会にて取り組んでまいりました活動を踏まえ、次期期間におきまして以下の事項を公約として掲げさせていただきます。皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>1. 作業療法の質の担保を新生涯学修制度により実現 当会では、国内の作業療法士のための新たな生涯学修制度を2025年度より始動する予定です。この制度では、認定・専門作業療法士制度に加え、登録作業療法士制度が新設されます。これにより、作業療法の質を確保し、作業療法士が継続的に学び、自己研鑽を積める環境を整備してまいります。</p> <p>2. 養成校指定規則改正による教育の充実 当会では、次期指定規則改正に向けた準備を進めております。2025年度は、厚生労働省において検討会が設置される重要な年です。議題として、4年制教育の推進、臨床実習施設および領域の見直し、客観的臨床能力試験の導入などが挙げられています。私は、未来を担う作業療法士の養成課程を一層充実させるべく、全力で取り組んでまいります。</p> <p>3. 作業療法士の社会的価値の向上 私は東京都在住の常務理事として、これまでも厚生労働省や国会議員への働きかけを積極的に行ってまいりました。作業療法士は、国民の健康と幸福に寄与できる、やりがいのある専門職です。この認識を社会全体に広め、国民の皆さまへ発信することで、作業療法士の社会的価値を高め、未来を切り拓いてまいります。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>博士(保健医療学), 専門作業療法士(精神科急性期), 認定作業療法士 1999～2012年 精神科病院, メンタルクリニック, 大学にて勤務 2012年 杏林大学保健学部作業療法学科 専任講師 杏林大学医学部付属病院精神神経科 非常勤 2016年 杏林大学医学部精神神経科学教室 兼任教員 2022年 杏林大学保健学部作業療法学科 准教授 現在に至る ・一般社団法人日本作業療法士協会: 常務理事, 代議員(東京都) ・日本総合病院精神医学会: リエゾン多職種委員会 ・日本うつ病作業療法研究会: 会長 ・アジア太平洋作業療法学会: 後援展示委員長</p>		

	氏 名	東 登志夫
	性 別	男性
	年 齢	59
	所属都道府県	長崎県
所属施設		
長崎大学		
立候補の趣旨		
<p>このたび、初めて理事選挙に立候補させていただきます東と申します。私は大学教員としての業務に従事する傍ら、学術部を中心に協会活動にも20年以上に渡り関わってきました。これらの経験を通じて、多くの学識者や専門家とのネットワークを築き、それが私のキャリアにとって貴重な財産となっています。この背景を生かし、協会活動をさらに広げ、深めていきたいと考えています。</p> <p>作業療法の学術レベルは、大学院教育の拡大や研究環境の整備により大きく向上しましたが、エビデンス構築に関しては依然として遅れがあります。科学的なデータや実証的な研究の蓄積が不十分なため、作業療法士としての専門性や職業的地位向上に限界があると感じています。この課題に取り組むため、組織としてエビデンスを構築する仕組みの構築を積極的に進めたいと考えています。</p> <p>また、協会の組織率低下も重要な課題です。私自身、協会に所属することで得られる恩恵を実感しており、専門知識の深化や仲間との交流を通じて自己成長につながっています。</p> <p>こうしたメリットを多くの方に実感していただくため、会員が積極的に参加できる仕組みを導入し、協会活動の付加価値を高めていくことが必要です。</p> <p>私の経験と情熱を生かし、協会の発展に貢献すべく全力で取り組む所存です。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>長崎大学医学部保健学科助手、神奈川県立保健福祉大学准教授を経て、2011年より長崎大学医学部保健学科教授、博士(学術)。大学院教育では、これまでに指導教員として20名の博士(医学)の学位取得を支援。協会活動では、学術誌編集委員会副委員長、学術委員会委員長、課題研究助成審査委員会委員長、教育部養成教育委員会MTDLP養成校対策班委員、作業療法定義改訂班委員、生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員、学会運営委員会委員(第52回日本作業療法学会副学会長、第53回日本作業療法学会学会長)、作業療法ガイドライン委員会委員、学術評議員会設置準備委員会委員などを歴任。</p>		

	氏 名	松尾 萌美
	性 別	女性
	年 齢	34
	所属都道府県	佐賀県
所属施設		
西九州大学		
立候補の趣旨		
<p>日本には世界第二位の作業療法士人口がいる一方、現場では作業療法士不足を耳にします。しかし、WFOT 調査ではそのことを日本政府に認識されていないという結果が出ています。作業療法士不足、作業療法の重要性を政府や社会に伝達するには、さらに協会の組織力を強くしていく必要があると考えます。</p> <p>私はこれまで、身体障害領域、特に中枢神経系を対象とした臨床、教育・研究フィールドにて勤務してまいりました。地域に目を向けるのと同時に、内部に留まらない作業療法士を意識し、個人的に国際学会や世界の作業療法士との交流活動を進めていた中、協会国際部アジア作業療法士協会交流会の班長を拝命しました。2023年には日本作業療法学会と併せて実施された会議にて議長を務めました。また、2025年にも交流会会議を控えています。2024年にはAPOTC実行委員補佐として皆様と協力して学会を作り上げることに携わり、組織運営の大変さを感じたのと同時に、やりがいを感じました。</p> <p>短期間ではありますが、協会組織で関わらせていただいた密な2年間を過ごし、社会における作業療法士の存在意義を高めたい、作業療法士の職域を拡大し多様な働き方を推進できるよう協会にて尽力したいと思い、このたび立候補させていただきます。具体的には、以下のテーマを念頭に活動したいと思っております。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国外に対する日本作業療法の伝搬および教育的支援 2. 国内に対する組織力強化および国際化支援 <p>何卒、よろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職歴・学位】 2013-2017 社会医療法人春回会 長崎北病院 総合リハビリテーション部 2018-2020 長崎大学 子どもの心の医療・教育センター／長崎大学 医学部 2021-現在 西九州大学 リハビリテーション学部／大学院 生活支援科学研究科 2021 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 修了 博士（医学）</p> <p>【協会活動歴】 2022-現在 佐賀県作業療法士協会 臨床実習指導者講習会 世話人，講師 2023-現在 日本作業療法士協会国際部 部員 2023-現在 日本作業療法士協会国際部国際交流課アジア作業療法協会交流会 班長 2024-現在 日本作業療法士協会 企画委員会 学会演題査読者</p>		

	氏 名	三澤 一登
	性 別	男性
	年 齢	63
	所属都道府県	愛媛県
所属施設		
一般財団法人積善会 愛媛十全医療学院		
立候補の趣旨		
<p>私が、理事に選出され10期20年を向かえることが出来たのは選挙において選出いただき理事活動に対する一定の評価を頂いたと感謝しております。協会は会長交代に伴い新体制のもとで組織改編に取り組んで参りました。結果として組織運営を検討機能である委員会と実行機能である事務局の体制を強化しより迅速性と効率化を推進すべき取り組みましたが現状では更なる対応が求められております。また、会費収入で成り立っている会務運営はやはり会員ファーストでありサービスを充実させる必要があります。限られた財源を有効活用し一人ひとりの会員が協会員であることの自負を高めることです。2024年のトリプル改定では専門職の処遇改善に一部財源が当てられましたが医療はもとより介護・障害福祉領域においては多職種と比較しても満足のいく結果に至っておりません。作業療法の特性は領域も拡大しニーズは高まる一方で作業療法士の専門性を提示し質を担保しなければ処遇改善にもつながらないのが現状です。厚生労働省においては、新たな地域医療構想に基づき各都道府県はその実態に沿った整備計画の議論が進んでおります。医療専門職である作業療法士の多くは医療領域で働いております。医療は全ての始まりであり他の領域連携をともし作業療法を必要としている方々に対し生涯住み慣れた地域で自分らしく満足のいく自立生活を安心して過ごすことが出来るかにかかっています。私は、今一度、個々の作業療法士が自ら作業療法の本質に立ち返り実践を強化していく必要があると思います。協会活動に対しは役割を頂き真摯に取り組んでまいりますので引き続き宜しくお願いします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1984年 財団法人積善会愛媛十全医療学院作業療法学科 卒業 1994年 愛媛県作業療法士会 理事(事務局長)・副会長・会長 2025年 現在、監事 2005年 日本作業療法士協会 理事・常務理事(制度対策部長:教育部長) 2025年 現在、副会長 他・関連団体の役員歴 2005年 日本発達障害ネットワーク(JDDnet)理事 2025年 現在、副理事長 国土交通省バリアフリー法関連委員会 委員</p>		

理事 29

	氏 名	村井 千賀
	性 別	女性
	年 齢	64
	所属都道府県	石川県
所属施設		
石川県立こころ病院		
立候補の趣旨		
<p>これまで MTDLP 指導者の新たな認定制度の創設、介護保険領域の訪問リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの新設 ICF に基づく作業療法のデータ収集分析等に取り組んできました。これらの取り組みをさらに充実し、それらを通して作業療法技術のさらなる見える化を図っていきます。</p> <p>また、認知症及び精神医療において、日本老年精神医学会をはじめ、日本及び公的 精神科病院協会などとの連携を推進し、医師の方々と共に精神科作業療法の質の向上に尽力していきます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1982年 3月 金沢大学医療技術短期大学部作業療学科卒 1982年 4月 リハビリテーション専門病院に勤務 1986年10月 県保健所勤務(難病支援、老人保健事業など) 1999年 4月 石川県リハビリテーションセンター勤務 2006年 4月 石川県庁健康福祉部健康推進課 2007年 4月 現石川県立こころの病院勤務 2009年 4月 保健学博士取得 2014年 4月 厚生労働省老健局老人保健課出向 2016年 4月 石川県立こころの病院勤務 2022年 4月 石川県認知症疾患医療センター勤務</p>		

	氏 名	山本 伸一
	性 別	男性
	年 齢	60
	所属都道府県	山梨県
所属施設		
日本作業療法士協会		
立候補の趣旨		
<p>日本作業療法士協会の理事は、日本のリハビリテーション・作業療法の未来を創るために、高所大所という立場、判断が求められます。そのうえで、1. 作業療法の学術の発展に関する事業、2. 作業療法士の技能の向上に関する事業、3. 作業療法の有効活用の促進に関する事業、4. 作業療法の普及と振興に関する事業、5. 内外関係団体との提携交流に関する事業、6. 大規模災害等により被害を受けた人の自立生活回復に向けた支援を目的とする事業等を、関係者の皆様方と共に、バランスよく、すべての会員のための事業を展開します。理事が一枚岩になること。まずはこれが必須です。これまで通り、そしてさらに力を合わせることをお約束します。今こそ、組織力が私たちの「力」になるはず。各都道府県士会、養成校、職域（勤務先）等、そして協会事務局内の総務部、学術部、教育部、制度対策部、地域社会振興部、国際部、生活環境支援推進室、MTDLP室、制作広報室、災害対策本部等、関わっていただいているすべての皆様に感謝です。この場を借りましてお礼を申し上げます。ひとつひとつが、なくてはならない存在。私たちには、仲間がいます。やりましょう、みんなで。作業療法士の活躍の場は、乳児から高齢者まで。介護予防から急性期・回復期・生活期、そして終末期のすべてに作業療法を。在宅復帰に留まらず、就学・就労・趣味拡大等、いきがいを持った「真の暮らし」のために作業療法があります。わたしたち作業療法士だからわかること、そして出来ることがあります。すべての組織力をさらに強化し、力合わせて前に進みます。</p> <p style="text-align: center;">～対象者との出会いが私たちを強くする～</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職 歴】昭和62年（1987）3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業 昭和62年（1987）4月 医療法人財団 加納岩 山梨温泉病院 （現社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院）入職 令和 5年（2023） 山梨リハビリテーション病院 退職 山梨リハビリテーション病院 非常勤 名誉副院長就任</p> <p>【受賞歴】平成28年（2016） 厚生労働大臣表彰</p> <p>【日本作業療法士協会役職】平成13年（2001）～ 理事 平成21年（2009）～ 常務理事 平成29年（2017）～ 副会長 令和 5年 6月（2023） 会長～</p> <p>【山梨県作業療法士会活動】平成2年（1990）～ 理事 平成8年（1996）～ 副会長 平成20年（2008）～令和4年（2022） 会長</p>		

	氏 名	吉田 太樹
	性 別	男性
	年 齢	38
	所属都道府県	愛知県
所属施設		
藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科		
立候補の趣旨		
<p>近年、社会は高齢化や国際化、価値観の多様化により日々変化しています。その中で、身体や精神の不調を抱える方々に加え、外国人住民や LGBTQ+ の方など、暮らしに困難を抱える人々への支援においても、作業療法士の役割は拡大しています。このような変化に対応するため、私は国内外の作業療法の潮流を捉え、多様な場面で活躍できる質の高い作業療法士を育成することに着目しています。</p> <p>これまで協会活動としては、国際部で国際的人材育成プロジェクトの国際学会発表支援や、国際協力に関する情報交換を目的としたセミナーの運営を担当し、作業療法士の質の向上に尽力してきました。また、教育分野では、臨床実習指導者の育成として、指導者の手引作成や講習会の運営・講師を務め、さらに学会演題の審査や学術論文の査読を行い、日本の作業療法の学術的発展に貢献してまいりました。</p> <p>理事としては、日本の作業療法士の質の向上を第一に掲げ、その実現のために国際的な相互交流を推進したいと考えています。日本で実践されている独自かつ世界でも高い水準にある作業療法実践を、国際学会などを通して発信する機会を更に増やしていきたいと考えています。また、諸外国での臨床実践を経験する機会を設け、多文化対応のスキルや異なる医療システムへの理解を促進し、国内での実践力をさらに向上させるきっかけを作りたいと考えています。</p> <p>何卒ご支援とご賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
【協会活動歴】	2018年-現在	学会演題審査員
	2019年-現在	国際部部員
	2020年-現在	教育部部員
	2020年-現在	学術誌 作業療法 査読者
	2021年-現在	学術誌 AsJOT 査読委員
	2022年-現在	海外研修助成制度審査員
【学歴・職歴】	2022年	博士(人間科学)早稲田大学
	2023年	専門作業療法士(脳血管障害)
	2009年-2012年	東京湾岸リハビリテーション病院
	2012年-2014年	国際協力機構JICA 青年海外協力隊
	2014年-2020年	東京湾岸リハビリテーション病院
	2020年-現在	藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

監事候補

監事 1

	氏 名	岩瀬 義昭
	性 別	男性
	年 齢	73
	所属都道府県	愛知県
所属施設		
自宅		
立候補の趣旨		
<p>*理事会推薦候補</p> <p>身辺からひとが消えていく個人的状況や、協会組織体制へのクォータ制導入等の変化に応じ 2024 年度で身を引こうと考えておりましたが、会長のお誘いと理事会による推薦により監事職を継続すると結論づけるに至りました。</p> <p>監事職業務について過去の且つ報告に記載しましたように大きく三点あると考えています。一つは理事会や三役の業務執行状況の監査、監督です。毎日身近で業務を監視している訳でないので、毎月の書類報告や議事録によるものが多くを占めております。できるだけ詳細に読み込む事を心がけ、提出された時間経緯の妥当性や審議された論点に齟齬がないか等を見ます。二つ目は、会計状況の点検です。当法人は会員諸氏からの会費が大きな原資となっています。執行状況は法人法に則っているか、会員に不利益になる状況に至っていないか等々を確認する事です。最後の点は、会員ならびに社員の皆様に報告する役割です。先の二つが、公に説明できる内容であるか、分かりやすいものであるかを監査し皆さんに伝える事です。</p> <p>次年度以降も理事・三役の活動が会員の皆様に役にたち且つわかりやすいものであるかを監査いたしますので、私の監事就任へ、皆さまのご承認をお願い致します。</p> <p>■理事会推薦理由</p> <p>岩瀬義昭氏は、会員歴 41 年、協会活動歴 32 年に及ぶ。この間、副会長 2 年、常務理事 12 年、理事 4 年、監事 4 年と、協会の中核にいて役員を歴任したほか、主として教育関連事業において部長、各種委員会の委員長を務めてきた。2021 年に監事に選任され、以後、これまでの豊富な理事経験や協会活動の歴史的経緯を踏まえた説明と助言、資料を詳細に読み込んだ上での的確な指摘などを通して、理事会及び理事の業務執行、法人運営と会計に対する監査・監督に努めてきた。協会事業全体を歴史的にも分野的にも俯瞰しながら問題点を見抜き指摘する力を引き続き発揮していただきたく、理事会として推薦することとした。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>会員歴 41 年、協会活動歴 32 年 副会長 2 年（2009-2011） 常務理事 12 年（1995-2001、2003-2009） 理事 4 年（1993-1994、2001-2003） 監事 4 年（2021-2025）</p>		

監事 2

	氏 名	香山 明美
	性 別	女性
	年 齢	65
	所属都道府県	宮城県
所属施設		
東北文化学園大学		
立候補の趣旨		
<p>*理事会推薦候補</p> <p>この度理事会推薦を受けて監事に立候補致しました。 これまでの協会役員を経験を活かし、協会が会員のために、国民のためにあるべき姿を示し続けられるように監事の職責を果たしたいと思います。</p> <p>■理事会推薦理由</p> <p>香山明美氏は、会員歴 41 年、協会活動歴 28 年に及ぶ。この間、副会長 10 年、常務理事 14 年、理事 2 年を歴任し、長く協会の中枢にあって杉原・中村・山本会長を支えてきた。事業面では、長年にわたり精神科領域や認知症の対応・対策に尽力したほか、司法領域では法務省との太いパイプを作り上げた。法人運営面では財務担当理事、事務局長、倫理委員長等々を務めて協会の屋台骨を支え、女性役員の一員として女性会員の参画促進、「誰もが主役 多様な協会へ」の動きを牽引してきた。これら幅広い経験と実績があり、時代に即応できる柔軟さと、時代に流されない揺るぎない信念を併せもつことを高く評価し、理事会として推薦することとした。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1983 年 宮城県立名取病院勤務 2006 年 宮城県立精神医療センター リハビリテーション科長 2014 年 同 地域支援科長兼訪問看護ステーション長 2016 年 みやぎ心のケアセンター 地域支援課長補佐 2020 年 東北文化学園大学医療福祉学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻専攻長・教授</p> <p>OT 協会役員歴 1999-2001 年 理事 2001-2015 年 常務理事 2015-2025 年 副会長</p>		

監事 3

	氏 名	澤 俊二
	性 別	男性
	年 齢	74
	所属都道府県	岐阜県
所属施設		
岐阜保健大学		
立候補の趣旨		
<p>*理事会推薦候補</p> <p>この度監事に立候補いたします澤 俊二と申します。</p> <p>4年間監事を経験して思ったことは、OT協会は会員の支持無くして成り立たない組織であることです。また、OT協会は関連団体や行政と深く結び交流をして国民の健康をさらに進めていく、貢献をしていく団体であると改めて認識いたしました。</p> <p>近年の組織率の低下は、会員の協会に対する支持を揺るがす事態になっています。</p> <p>全ての状況を何とかして打開したとの思いを強くして激務を承知の上で会長、理事等になられた方、そして、屋台骨を支えていただく事務局の職員の方々にさらに尊敬の念をもってこれからも接していきたいと思っております。その上で、協会の発展のために監事として責務を果たす所存です。</p> <p>■理事会推薦理由</p> <p>澤俊二氏は、会員歴48年、協会活動歴27年に及ぶ。理事としては主に渉外部の活動に従事したほか、学術部、老人問題専門委員会にて活動。2006年以降は協会の教育関連事業に大きく貢献し、養成教育部長・養成教育委員長を歴任した。2021年に監事に選任され、以後、長年にわたる協会活動、臨床、教育活動の経験を踏まえて、大所高所から協会事業を捉え、的確な指摘・助言を行ってきた。協会の草創期からの精神を継承し、時には厳しい目で根本に立ち返ることを促すが、よい活動に対しては積極的に評価・後押しをして理事会を支えてきた。経歴・実績・人柄ともに監事に適任と考え、理事会として推薦することとした。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>[協会活動歴]</p> <p>監事 2021.06-現在</p> <p>理事 1977.06-1979.05</p> <p>学術部部員 1979.07-1985.07</p> <p>養成教育部部長 2009.06-2011.06</p> <p>教育部 養成教育委員会委員長 2011.06-2018.03</p>		

会長候補

会長候補 1

	氏 名	山本 伸一
	性 別	男性
	年 齢	60
	所属都道府県	山梨県
所属施設		
日本作業療法士協会		
立候補の趣旨		
<p>2024 年は能登半島地震 – 特に能登半島に関しては集中豪雨も重なり甚大な被害となったことは言うまでもありません。命を落とされた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災地の皆様、関係者の皆様に、改めて心よりお見舞いを申し上げます。今後も能登半島等への支援を継続し、また起こるかもしれない自然災害に立ち向かえるよう平時での準備に取り掛かります。</p> <p>昨今、私たちを取り巻く環境は、時代と共に多様化しています。しかし、作業療法の核は変わりません。私たちに求められているのは「確かな臨床力」です。教育部における新生涯学修制度も始まります。2024 年 10 月の理事会で、新生涯学修制度の大方針「登録作業療法士と認定作業療法士の目指す方向性」を打ち出しました。また、学術部は APOTC の盛況から世界照準へ。制度対策部は、すべての報酬制度の見直し。地域社会振興部は、全市町村担当窓口設置等。やらなければならない事業は、挙げればきりがありません。すべての分野の会員作業療法士の質の担保を最優先とし、地域リハビリテーションの推進、認知症リハビリテーションの実践、就労支援、こども支援（5 歳児検診の推進や学校作業療法）等、すべての組織力でしっかりとやり遂げます。</p> <p>また、各報酬制度の維持・増収や職域の拡大、そして賃金 UP 等においては、わたしたちの重要課題です。これまでの関係各省庁や各団体渉外だけでなく、政治活動にも力を入れます。目指しているのは、輝いている作業療法士、魅力のある各都道府県士会と日本作業療法士協会。</p> <p>一般社団法人 日本作業療法士協会は、未来の作業療法を、そして作業療法士を必ず守ります。何卒よろしく願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職 歴】 昭和62年（1987）3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業 昭和62年（1987）4月 医療法人財団 加納岩 山梨温泉病院 （現社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院）入職 令和 5年（2023） 山梨リハビリテーション病院 退職 山梨リハビリテーション病院 非常勤 名誉副院長就任</p> <p>【受賞歴】 平成28年（2016） 厚生労働大臣表彰</p> <p>【日本作業療法士協会役職】 平成13年（2001）～ 理事 平成21年（2009）～ 常務理事 平成29年（2017）～ 副会長 令和 5年 6月（2023） 会長～</p> <p>【山梨県作業療法士会活動】 平成2年（1990）～ 理事 平成8年（1996）～ 副会長 平成20年（2008）～令和4年（2022） 会長</p>		

JAPAN
01